新品種・新技術の確立
支援事業　取組概要
（R2～R3）

表題『新たな暖地型牧草（草種：パンゴラグラス（品種：トランスバーラ））の特性把握と栽培マニュアル作成』
＝鹿児島県＝

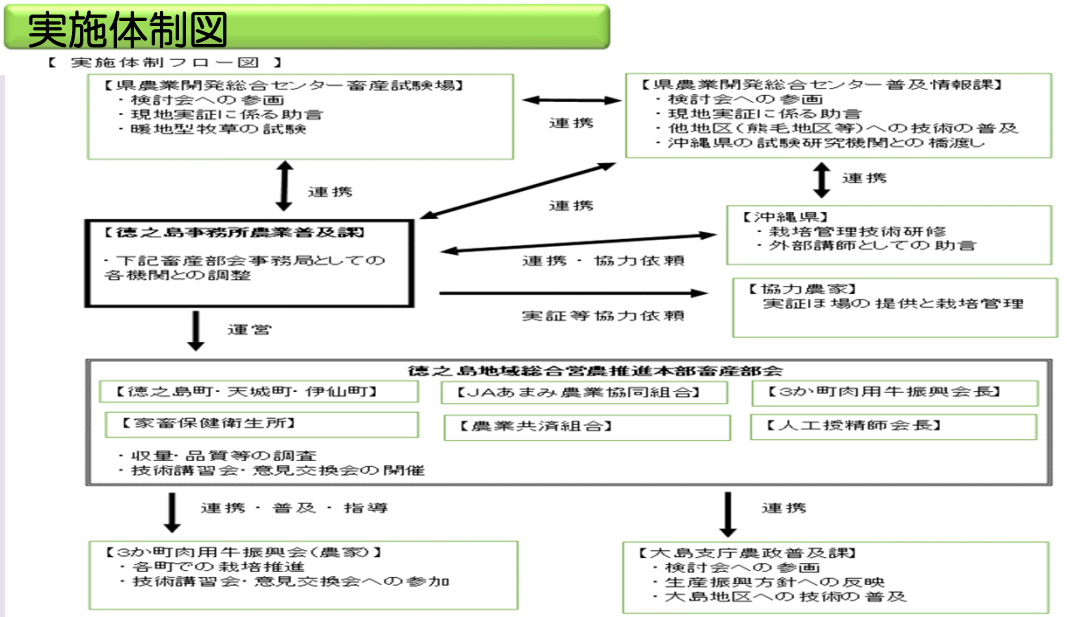
【全体概要】

徳之島では，主要草種であるローズグラスの病害発生が課題となっていることから，代替の暖地型牧草として，経年劣化しにくく，収量性・栄養面が高く，牛の嗜好性もよいとされる「パンゴラグラス」への転換が急務となっている。農家への普及のためには，栽培技術の確立が必要であることから，実証栽培や検討会を通じ，パンゴラグラスの特性把握と栽培マニュアル作成を行い，普及拡大を図っていく。

新品種・新技術等の概要

＜新品種の概要＞
草種名　：　パンゴラグラス
品種名　：　トランスバーラ
〇特性等
① 種子繁殖ではなく，栄養繁殖（茎さし）
② 細茎の芝型で牛の嗜好性が良く，緻密な草地を永続的に形成
③ 褐点病に強い
＜新技術の概要＞
①栽培技術の確立
②定着までの収量確保技術の検討

実施体制図



主な取組内容

〇新品種・新技術等の特性把握
・実証ほ場において，栽培技術を実証。
・定着までの収量確保技術（混播栽培）の検討。
・栽培・利用等に関する実態把握（アンケート調査）と栄養分析。
・外部講師を招いた研修会（意見交換）と情報収集の実施。
〇新品種・新技術の普及等に関する手引きの作成準備
・実証ほ及び農家実態調査結果等，栽培マニュアルの作成に必要なデータ収集と技術の整理

実績と今後の展開

〇１年目の実績
・ローズグラス（カリーデ）との混播により，１年目から増収が図られた（トランスバーラ単播区との乾物比147%）。
・既栽培農家へのアンケート調査等で栽培ポイントの整理ができた。
〇２年目の実績
・2年目にはトランスバーラが優勢・定着し，増収技術が確立した。
・大型機械収穫体系での収量減はないことがわかった（耐機械踏圧性強）。
・栄養価はチモシーと同等（乾物CP約10%）で，経年劣化が少なく，子牛に給与することで，飼料費の削減が期待できることがわかった。
・栽培定着のマニュアルを作成・配布し，栽培推進を図った。
（R4年3月時点：島内の栽培面積約135ha，栽培戸数128戸）
〇今後の展開　増収技術の波及と栽培面積の拡大